

# 住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1445号 1998年07月13日(月)

## 《 some troubles for Japan for a short term 》

週末に行われた日本の参議院選挙は、市場に難しい選択を迫るものです。短期的には、政治の継続性が断たれ、当面政治が混乱するという意味では円安、株安の材料となる。事実、円相場は早速シドニー市場で大幅な円安になっている。株も、しばらくは下げ基調で神経質な展開を示すでしょう。

しかし、国民の示した「変化」への意思が強く、後継政権が矢継ぎ早に景気対策、不良債権処理で政策を打ちださざるを得なくなれば、今回の選挙は中・長期的には日本にとって好ましい変化のきっかけになる。この場合には、少し長期的には円高、株高のシナリオが描ける。問題は、まず政権が出来るまでです。政治の混乱が続いた場合には、円安、株安の期間が長くなる。ここ当分の市場は政局の動向と、打たれる一つ一つの措置によって揺れるでしょう。

投票率が急速に上昇したなかで自民党が惨敗したことは、国民が今までの指導者、その政治手法の変更を望んでいることは明確で、これを受けて橋本首相は13日にも退陣表明する見通しである。また、加藤幹事長など自民党執行部も退陣の見通し。問題は後継政権が誰を中心に、どのようなまとまりと権力基盤で、どのような政策と政治手法を前面に政権を構成するか、それがどのくらい短期間で立ち上がるかである。後継首班には、小淵、梶山、宮沢などの名前が挙がっている。小淵氏は党内基盤は比較的しっかりしているが、経済手腕は未知数である。市場はあまり好感しないだろう。その場合は、蔵相に誰を置くかが重要。梶山氏、宮沢氏がなるとしたら短期政権となるが、その代わり景気対策や不良債権処理で思い切った手を打ってくる可能性がある。次期政権の立ち上げは速ければ速いほど、市場は早期に安定する。

この選挙の一番の番狂わせは、「投票率」にあったと言えそうです。緩和された不在者投票制度の活用が進み、また投票時間そのものも2時間延長されたこともあって、58.84%の投票率があったと見られる。これは、前回の44.52%を大幅に上回るもので、参議院選挙投票率の減少傾向は12年ぶりに逆転した。「史上最低の投票率も」と見られていた中で、国民が「投票に行かねば」と考え、投票した背景は次のようなものです。

1. 失業問題など国民の身の回りに迫った危機への発言権行使

2. 「小出し・後手後手」ばかりで指導力のない政治への怒り
3. 橋本首相個人の政治手法に対する批判
4. そしてやはり政治には「もの言わねば」という空気

橋本首相の「政治手法」の中で今回の敗北に直接つながったのは、「恒久減税」を巡る混乱でしょう。先々週の金曜日に熊本で演説し、新聞の夕刊であれほど「恒久減税示唆」と報じられながら、その週末にはテレビに出て「私は言っていない」と言い、結局は「恒久的な税制改正」に追い込まれる。しかし、「恒久的な税制改正」とはこれまたわかりにくい表現です。こうした橋本首相の個人的なもったいぶったしゃべり方や政治手法が、国民の自民党離反を促したと思われる。マスコミにも評判が悪かった。

「小出し・後手後手」の政策も、「敏速、かつ大胆」な手法を常に求めるマーケットの期待を裏切るもので、市場の反応を政策の成否の一つのメルクマールにし始めた国民には、失望につながっていた筈です。それが、選挙戦序盤の「自民党有利」の中で、「もの言わねば」という投票への誘因につながったと思われる。

### 《 high voting rates for the time being 》

以上のような背景が投票率上昇の原因だとすると、この政治への関心の高まりは今回だけでなく、今後数回の選挙で続く可能性がある。とすると、自民党を含めて各政党は投票率の上昇を前提に置いた政治を行う必要性に迫られるということです。これは在来型政治からの脱却が日本で進む可能性を示唆する。政治家も、これまで以上に政策を勉強せざるを得なくなるでしょう。むしろ、それには相当の混乱も伴うでしょう。

「これだけ経済危機なのに、日本ではまだ政権党が勝ちそうだ。これは不思議だ」(ニューヨーク・タイムズ)と言われた日本の政治状況は変化したと見るのが可能です。市場からも、国民からも見放された政権の後を継ぐ政権は、国民と市場に関心を払う政権にならざるを得ません。先週の金曜日のこのニュースで書いたような動きが基調であるとすれば、今回の選挙がもたらした政治的变化は長期的には日本にとって望ましいものになる。問題はタイムテーブルです。あまり時間がかかると、それ以前に日本経済に大きな傷跡を残してしまう。

今週の主な予定は次の通りです。

- |          |   |
|----------|---|
| 13日(月曜日) | キリレンコ・ロシア首相が来日(14日まで)<br>5月の日本の機械受注(経済企画庁)<br>BISの月例総裁会議(日銀本店で) |
| 14日(火曜日) | 東アジア・太平洋中央銀行役員会議(EMEAP、日銀本店で)<br>6月の米小売売上高                      |

16日(木曜日)	6月の米消費者物価 自民党の税制調査会 6月のマネーサプライ 日銀金融政策決定会合
17日(金曜日)	6月の米鉱工業生産・設備稼働率 7月の月例経済報告 5月の米貿易収支

日程は以上ですが、何よりも関心を集めるのは次期総裁の選任過程と、新政権に対する自民党内、および野党の動きになるでしょう。まず自民党内でも足場の弱い政権が出来た場合には、それだけで市場は政権の足下を見る可能性がある。

野党の動きも重要です。法案に是々非々の態度を取らずに、新政権にすべて反対という態度だと、日本の政治は新政権が出来ても大きく混乱する可能性がある。自民党が参議院で過半数を大きく下回ったことから、法案通過の為にはどこかの党との関係が必要になる。この枠組みが出来上がるかどうか、当面の関心事項である。。

### 〈 have a nice week 〉

天気の良い週末でした。日曜日はおまけに涼しかった。横浜に結婚式に出かけましたが、めずらしくスピーチのない式で楽でした。これに先立つ土曜日は、朝から荒川の河原に出かけて日短エクスコと当社ディーリング・ルームの有志チームとの野球の対抗戦をしましたが、暑かった。予定していた球場が前夜の雨で使えず、球場とも言えない要するに草むらの上での野球になったのですが、これは凄かった。ゴロなんて球筋がどう変わるかなんて全く分からない。

もう2時間やったら汗だくで、体は動かなくなるし。私もちよい横腹を痛めた。東京ドームを借り切りで試合をしたときにも、右足を痛めた。たまに急激な運動をするといかんですな。でも最後で全員で飲んだビールは美味しかった。

フランスは、ついに勝ってしまいましたね。さて、2002年はどうなりますか。日本、韓国どちらかが優勝……なんてことはないでしょうな。

ところで、今日は一つ店の紹介をしましょう。金曜日の夜でしたが、以前為替の世界にいた佐々木君に教わっていてずっと行きたかったのに行けなかった店。六本木の Abbey Road。2時間半以上いましたが、店に入った瞬間から出るその瞬間まで、耳に入ってきた曲は全部聞いたことがある。無論、曲名が直ちに出てくる曲が圧倒的で、ほぼ全部の曲を口ずさんできました。

Abbey Road といえば、分かりますよね。ビートルズのレーベルであるアップルの本社があった通りの名前で、その名前のアルバムもある。ビートルズの4人が道を横断してい

る写真で、誰がどういう順番で道を渡っているかのクイズを出すと面白い。私の記憶では、ジョン、リンゴ、ポール、ジョージですが、そうでしたっけ。

ビートルズのそっくりさんといえば、70年代後半のニューヨークのミュージカル「Beatlemania」を思い出す。こちらは、姿形、声とも Abbey Road より数段上でしたが、もうビートルズはそこから「懐かしグループ」だったのです。金曜日なのに、11時スタートの演奏が終わると席を立つ人が多かったのは、「六本木らしくない」と思いましたが、最近はこうなのでしょう。料金もリーズナブルだし、曲を聞いて楽しめる人にはお勧めかもしれない。30分置きくらいにショータイムがある。ただし、食事をしてから行く店と見ました。オリジナルの T-shirts も売っている。

<http://www.ycaster.com/>